

# Die Eiche

ディ アイヘ  
http://www.jdg-chiba.com



Japanisch-Deutsche  
Gesellschaft der Präfektur  
Chiba

〒270-2214松戸市松飛台556-12  
Tel./Fax: 047-385-1456

Mail: info@jdg-chiba.com



協会Home Page

## 23年度年次総会

—4年ぶりに対面方式にて行われる—

常任理事兼事務局長 植松 健

2023年度千葉県日独協会年次総会が、5月14日(日)15時半より船橋中央公民館音楽室にて、実に4年ぶりとなる対面方式にて開催されました。

金谷会長の挨拶に続き、議長に木戸副会長が選出され、前段階として書面表決方式にて開催された理事会の審議・承認を経た事案について厳正に審議され、第27回年次総会議案は規約第十条第3項の規定に基づき、多数決にて原案通りすべて承認されました(会員数111名の内有効議決者数は、議長を除く当日出席者39名、会長への委任状45通計84名)。



### 千葉県日独協会総会議案書(承認済み)

#### ■2022年度(令和4年度)事業(実施事項のみ記載)

##### 1. 主な会議:

運営委員会(メール、オンラインにて)、理事会(書面表決方式)、年次総会(書面表決方式、総会記念講演も断念)、ドイツ軍人慰霊祭、新春講演会

##### 2. 文化教養行事:

- ボトルシップ研究会
- ドイツ語講習会
- ドイツ語入門研究会
- オーストリアからマルツァイト開催協力

##### 3. 青壮年部会主催行事:

- 会員への最新ドイツ情報提供(Facebook)
- 日本語Stammtisch(ドイツ語母語者を交えての交流会)
- オンライン講演会(ドイツ大使館文化事業助成プログラム適用)

##### 4. 菩提樹委員会

##### 5. 習志野第九演奏会後援

##### 6. 特別行事:

- 国際フェスタ千葉(オンライン参加)
- 市川ドイツデー
- 習志野ドイツフェア&グルメフェスタ

##### 7. 協会通信「Die Eiche」: 編集委員会を開催し、偶数月年6回(No136~141)発行

##### 8. 協会ホームページ運営、管理: ITの積極活用継続確認

##### 9. 独日協会アム・ニーダーライン(DJG am Niederrhein)との交流 同協会のワーキングホリデーで来日学生の日本滞在時サポート



総会会場の様子

#### ■2022年度(令和4年度)決算及び監査報告

一般会計実績: 収入の部合計1,636,678円、支出の部合計546,844円、次期繰越金1,089,834円、・特別会計実績(日独友好交流基金): 収入の部合計870,110円、支出の部合計152,198円、次期繰越金717,912円の決算となり、監事の適正を認める監査報告書も添付され承認されました。

#### ■2023年度(令和5年度)事業計画

依然新型コロナが完全に収束したとまでは言えませんが、5月より感染法上の分類も季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げられたのを受けて、出来るだけ対面での開催が可能な行事について、順次復活させていきます。一方で、所在に関係なく参加可能なオンラインイベントに関しても、そのメリットを活かして、継続して実施していきます。また、青壮年部会を中心として組織の活性化のため、新規会員増に努めるとともに現会員との連携強化も図ります。

##### 1. 主な会議: 運営委員会(毎月)、理事会(書面)、年次総会(対面式)

記念講演会・懇親会(5月14日実施)

##### 2. 主要行事\* 定例\* 文化教養\* 特別(各行事とも従来実施してきた行事及び新企画を計画します)

##### 3. 協会通信「Die Eiche」は編集委員会を開催し原則偶数月年6回発行予定

##### 4. 全国日独協会連合会総会(4月20~22日実施)

##### 5. 独日協会アム・ニーダーラインとの交流、千葉県国際課との連携強化

##### 6. 2024年のデュッセルドルフ市「Japantag」に合わせドイツ語圏研修旅行準備委員会発足

##### 7. 創立30周年(2026年)に向けての準備



#### ■2023年度(令和5年度)収支予算

一般会計予算: 収入の部合計1,535,836円、支出の部合計630,000円、次期繰越金合計905,836円

特別会計予算: 収入の部合計864,917円、支出の部合計177,000円、次期繰越金687,917円合計にて予算が承認されました。

### 役員(任期 23/4-24/3、青字は、運営委員)

名誉会長	平尾 浩三 宗宮 好和
会長	金谷 誠一郎
副会長	木戸 裕
常任理事兼事務局長	植松 健
常任理事兼会計担当	本橋 緑
常任理事	安藤 永一 勝見 浩明 志賀 久徳 土屋 有里 本間 美里 三輪 瑛 吉川 三朗
理事	石元 成子 大野 亘児 岡村 三郎 木戸 芳子 草本 晶 坂田 博 杉田 房之 須古 正恒 竹内 優(個別案件でサポート)
	田中正延 友野 信善 内藤 敏子 中村 孝子 堀江 弘隆 松江 美代子 宮藤 宏 室田 真由見
監事	中野 泰行 湯浅 正人

# 総会記念講演会開催

## ドイツ語の詩と音楽

～ドイツ歌曲の楽しみ～

今回の総会記念講演は、非常に示唆に富む内容でした。どの点が素敵だと思ったのでしょうか。

まず、登場する作曲家、Schubert, Schumann, Werner各人、19世紀前半から中庸の時代にGoethe, Eichendorff, など韻を踏んだ詩に芸術的な曲をつけ、ドイツ音楽の特徴の一つかと思いますが、詩にフォーカスしたうえで音楽と統合した芸術表現が完成している点がとても興味深かったです。Goetheの韻の踏み方、名詞がつらなる形式のRückertの韻の形式も新鮮なことでした。更に、そこに音楽表現としてのWernerの「野ばら」とSchubertとの「野ばら」による詩のリズムと



音楽のリズムの違いによる曲想の相違を丁寧な解説と実際の歌唱表

ウェルナー作曲  
《野ばら》

- ▶ 詩のリズム  
強弱、長短
- ▶ 音楽のリズム  
8分の6拍子
- 曲の雰囲気は？  
思い浮かぶ情景は？

Heidenroslein  
歌 歌集  
F. Werner  
指揮者 長瀬 浩一

シューベルト作曲  
《野ばら》

- ▶ 詩のリズム  
強弱
- ▶ 音楽のリズム  
4分の2拍子
- 曲の雰囲気は？  
思い浮かぶ情景は？

Heidenroslein  
歌 歌集  
F. Schubert  
指揮者 長瀬 浩一

作品《野ばら》の詩と音楽の相違点—講演資料抜粋

現を声楽家の土屋さんがしてくださり、とても立体的な講演であったのもとても印象的でした。

個人的に欧州の19世紀についてとても関心を持っているのですが、Goetheが20代Straßburg大学在籍中にHerderの影響を受け、文学の伝統的な様式よりも素朴で自然回帰の方向で多くの民謡（プレゼン資料には、ドイツの曲についての用語定義もついてました）収集、それらをベースにしたGoetheの詩に多くの作曲家が曲を作ったという事実も新鮮でした。Schubertは若くして亡くなりますが、生前Goetheに魔王という曲をプレゼンしたが、相手にされず、Schubert死去後にGoetheがその偉大さに気づくというエピソード満載で興味深かったです。同時に各作曲家の人生エピソードについても言及され、Schubertは作曲に熱を上げすぎ学科の成績が下げてしまい、これを懸念した父親から五線譜を買う小遣いも

シューマン作曲  
《月の夜》  
伴奏で表現される詩の情景

- ◆ 天と地（高音der Himmer - 低音die Erde）
- ◆ 静けさ
- ◆ かすかな風のそよぎ
- ◆ 星の輝き
- ◆ 景色の広がり
- ◆ 穏やかさ など

V. MONDNACHT  
Zart, heimlich  
月夜  
21.  
wie als käm' der Him- mel die Br- ücke still  
Bla-

詩の情景を表現する伴奏—講演資料抜粋

制限されたとか、出版業を営む父の影響もあったSchumannは、当時としては、珍しい音楽専門誌を発行、若手音楽家の紹介などを批評家としても活動していたなどとても示唆に富んだ点のひとつでした、

Schumannといえば、私は、献呈という曲が好きですが、「月の夜」が紹介された際に天と地の音楽表現、低音のベースからいきなり

高音に移動、滑らかな下降旋律になる表現形式に感銘しました。同時にSchumannの素敵な姿勢として、音楽と詩は同じ位置づけであるとして歌曲の中でも前奏や後奏の中でもピアノを単に伴奏の位置づけでないとした曲の構成でした。その中でも「献呈」の中の後奏の中にSchubertのAve Mariaのモチーフが潜まれている、結婚に対する彼の神聖な気持ちが表現されているのは、印象的でした。

（常任理事：勝見 浩明）

### 講師 土屋常任理事のコメント

この度4年ぶりの対面による総会記念講演会で講演させていただき誠にありがとうございました。演題「ドイツ語の詩と音楽 ～ドイツ歌曲の楽しみ～」の中で、前半は同じゲーテの詩「野ばら」から作られたウェルナーとシューベルトの歌曲「野ばら」の違いや特徴を、後半はシューマンによる歌曲「月の夜」（詩：アイヒンドルフ）と歌曲「献呈」（詩：リュッケルト）という2曲から、それぞれ詩の内容が音楽ではどのように表現されているかを解説しました。詩の朗読と歌は声楽家ソプラノ歌手の土屋実穂さんをお願いしました。朗読は、本格的な発音のみならず、内容が目に見えかのように豊かな表現で披露してくださいました。詩を味わっていただいた後は、演奏の鑑賞ポイントを説明して講演者によるピアノを伴った演奏を聴いていただきました。

詩の解釈は様々に出来ますので、歌手とピアニストは話し合いながら、また演奏しながらそのイメージを作り上げていきます。この作業も演奏家にとって楽しみのひとつです。

当日皆様には暖かい雰囲気の中で聴いていただきありがとうございました。ドイツ歌曲の豊かな世界と生演奏の醍醐味が少しでも伝わっていれば幸いです。

## 懇親会

4年ぶりの懇親会盛大に催されました。

記念講演会の後に会場を「今日和」に移して懇親会が開催され、35名の若手から先輩までの会員が参加し、久しぶりの対面の喜びを分かち合いました。木戸副会長の挨拶、宗宮名誉会長の乾杯の音頭にて始まり、最後は、本間常任理事の閉会の辞で終了しました。その間、参加者のスピーチなども交えて、和やかな雰囲気が進められた4年ぶりの懇親会は大盛況でした。





大いに盛り上がった懇親会の余韻を示す集合写真

## 新年度の活動に向けて

運営委員の抱負を本号と次号で紹介

### 土屋常任理事-新年度の抱負

会員の皆様には日ごろからご支援ご協力を頂き誠にありがとうございます。

5月8日から新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類感染症となり、ようやく行動制限が緩和されるようになりました。まだまだ油断はできませんが、今年度はこれまでできなかった対面行事による会員同士の交流が復活することを期待しています。

対面行事が制限される中、急速に拡大したのがオンラインの活用でした。当協会でも自宅から参加できるオンラインを導入して、シュタムティッシュ、ドイツ語講習会、ドイツ語入門研究会、様々な講演会などを行いました。その結果、千葉県のみならず他県やドイツからの参加が可能になり新たな交流が生まれました。さらに、オンライン行事では他協会との協力体制も始まりました。このように広がった可能性は今後に繋げていきたいと考えています。

ドイツにまつわる様々な興味をもった方々が楽しく集い、ひいては日独友好親善が図れるような会の一助となれるよう、微力ながら今年度も努めてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



### 本間常任理事-新年度の抱負

今年2月に麗澤大学に於いて在日本ドイツ大使館フィーツ工首席公使を講師にお招きした新春講演会、並びに麗澤大教授草本理事を囲んだ懇親会では、千葉県日独協会会員以外の一般の方が大勢ご参加くださいました。また、先月5月に行われた当協会総会後に行われた会員同士の懇親会にも沢山の方がご参加され、いずれも大変楽しいひと時を過ごし、会を通じて、対面式での交流の良さを改めて認識する場となりました。こうしてお集りいただいた方々との交流を深めることができましたことは、今後の更なる協会の発展につながると思われま



昨年度はオンラインによるドイツ語講習会の運営スタッフを担当いたしました。今年はオンライン式、対面形式、それぞれの利点をうまく活用しつつ、協会会員以外の一般の方へも千葉県日独協会の活動につ

いて幅広くご案内し、更には国内における他の日独協会、独日協会等との交流の輪を広げる活動により関わっていきたくて思っております。ドイツ、またはドイツ語に興味があれば、どなたでも気軽に参加出来るような催しを企画・運営出来るよう、更に邁進してまいります。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

### 吉川常任理事-新年度の抱負

2023年度の私の「新年度の抱負」は、協会活動の環境条件が、昨年度までの新型コロナ対策を最優先としたものから、今年度は相当緩和されることが期待されますので、私の好きな賑やかなお祭りや酒席の計画が復活できるのではないかと今から楽しみにしているところです。

そしてここ最近、青壮年部による活動範囲の拡大とともに、若い方の入会が多くなってきたこと、世界情勢の変化によってドイツ連邦共和国が日本に関心を深めつつあること等もあり、当協会が掲げている国際交流活動がより一層重要な価値を持つようになってきていると認識しています。



こうした環境のなか、毎年11月のドイツ「国民哀悼の日」に、ドイツ大使館から武官等をお迎えして行う「ドイツ軍人慰霊祭」の開催、その外に、ドイツ関係者や会員による講演会、「Die Eiche」による会員内外の広報活動、ドイツ語講習会、市川市や習志野市のドイツデーにおける広報活動、会員懇親のための「ビール祭り」や「クリスマス会」のほか、デュッセルドルフ市や千葉大学への留学生のホームステイ希望者の受入れ等を行い、国境を超えた支援活動を行っていければと考えています。その思いは「人生は人との出会いの積分値」にあります。

### 安藤常任理事-新年度の抱負

私は会社員時代に2度ドイツに赴任し、通算12年滞在いたしました。そのほか、ハンガリーと中国に通算6年滞在し、総計18年を海外で暮らしてきました。

ドイツ時代には様々な交流組織の活動により、家族が現地の文化に馴染むのを助けてもらった記憶があります。また、現地校に通って補習授業を受けている日本人の子供と、ギムナジウムに通っているドイツ人で日本や日本行事に関心のある人たちとの交流も盛んでした。



このような経験の恩返し気持もあり、これまで習志野ドイツフェアという催しに対して、千葉県日独協会の担当として習志野市との連携構築に努めてきました。これは、ドイツに関する活動を積極的に行う千葉県日独協会の、非会員の一般の市民に向けての活動アピールと位置付けられるかと思えます。

長きにわたって日常的に日独双方の人々の交流が盛んであったことを考えますと、運営委員の一員として、さらに日独交流の場を日常的に体験できるような協会に発展していく姿を見守りたいと思います。

長期のドイツ滞在の経験を生かし、千葉県日独協会において日独の接点拡大に微力ながら貢献したいと思っています。

## ドイツ兵捕虜と地域の人々



ドイツと私 -小林 多美子 -

私とドイツの接点は、第一次世界大戦時に習志野原に設置されたドイツ兵捕虜収容所について、毎日新聞船橋支局の記者として取材をしたことが始まりです。この捕虜収容所、および習志野霊園（船橋市）にあるドイツ兵捕虜の慰霊碑については会員の皆さんには私より詳しい方がたくさんいらっしゃると思いますので詳細は述べませんが、1915（大正4）年に、現在の習志野市東習志野に設置された収容所に最大で約1000人の捕虜が生活しました。



ドイツ兵捕虜の慰霊祭

地元の記者として興味を抱くところとしては、収容所が地域にとってどのような存在だったかということです。「ドイツと私」というコーナーの趣旨にはややずれるかもしれませんが、当時の資料などから分かる地域との交流などを紹介します。



習志野霊園におけるドイツ兵とロシア兵の慰霊の植樹

習志野原ではこれに先立つ約10年前にも、日露戦争でのロシア兵捕虜の収容所が置かれています。当時の新聞によると、ロシア兵捕虜が津田沼駅に到着した際は駅に見物人たちが集まっています。外国人を実際に見ることは珍しかったのでしょう。記事を書いた記者自身も好奇の目で捕虜たちを見つめていたことが分かります。捕虜が、たばこを吸っていた見物人に向けて手をのばしてたばこを求めたことが記され、厳重な警備などはなかったことが想像されます。

この経験からか、習志野原周辺の人々は外国人の存在に慣れていたのかもしれませんが。ドイツ兵捕虜収容所では地元の主婦たちが捕虜たちの衣服の洗濯を請け負っていたことや、子どもたちが収容所で開かれた演芸会をのぞき、捕虜からラムネをもらったことなどが伝わっています。

また捕虜たちは、遠足として船橋市の御滝不動尊や千葉市の稲毛海岸にも出かけています。突如現れた外国人の集団をそれぞれの地元の人たちがどのように見つめたのか、想像すると楽しくもあります。

よく知られているのがドイツ兵捕虜によってソーセージの製法が日本に伝わったこと、市の文化財にも指定されているホテルシップ2点です。1点は小学校児童が収容所を見学に来た際に引率していた女性教諭に、もう1点は収容所に野菜を納入していた青果店の店主に、それぞれ捕虜から贈られたと伝わります。

細長い瓶の中で精密に組み立てられた船の模型はとても美しいですが、その価値はなにより、ホテルシップを通じて捕虜と地域住民の間に人間同士のつながりができていたことを今に伝えてくれていること、またそれを大事に保管していた遺族の方たちの想いにあると思います。

## 新入会員紹介（小原 陽子）

皆さま、初めまして。



昨年9月に入会しました小原陽子と申します。私は岩手県北上市出身で、約6年前に宮城県仙台市から転勤で千葉県に引っ越してきました。

ここ数年は遠出もできなかったため、コロナが落ち着いたらやってみようかと思ったり、住んでいる街について調べたりしていたところ、千葉県日独協会と出会いました。イベントにはまだ数回しか参加していませんが、とても有意義なものとなり、今後のイベントにも期待しております。

ドイツへは観光で一度しか訪れたことがありませんが、これまでにドイツとは何かと縁を感じる事が多く、友人もいることから、近い将来、また訪れることができたらいいなと思っています。

千葉県日独協会、ドイツ、千葉県…まだまだ知らないことばかりですが、いろいろと教えていただければと思います。どうぞよろしくお願ひします。

## お知らせ-船橋FACE 5Fで協会の活動を展示

船橋市市民活動サポートセンターからの呼びかけに応じて、千葉県日独協会についての紹介パネルの展示をしております。協会の国際交流活動、今年2月に行われた麗澤大学での講演会、懇親会の写真、ドイツ軍人慰霊祭、総会懇親会の写真等を展示しています。展示期間は、6/1-6/30。会員の皆様は、もちろんのこと、ドイツに関心をお持ちの方もお誘いいただきまして是非お運びください。



## 今後の予定

### ■青壮年部-詳細、別途ご案内

日本語/日本文化研究会

日本語シタムティッシュ 9月下旬実施で準備中

ドイツ歴史研究会

柳原先生をお招きした講演会を10月実施で準備中

衣笠先生による講演会も別途計画しています。

### ■ドイツ軍人慰霊祭

11月開催予定（日程確定次第、別途ご案内）

## 会員情報

個人会員	土屋 実穂	八千代市
	小澤 雅子	佐倉市
法人会員	医療法人 同和会 千葉病院、社会福祉法人清和会、(株)京葉ビル管理、(株)和幸電気工事	

## 編集後記

総会記念講演は、まさに対面方式でなければ、リアルなライブ環境でなければ、ドイツ音楽の韻、詩を重んじる音楽形式も実際の歌唱表現をリアルに感じることはできなかったと思います。ドイツ音楽についての講演を聴講しながら、ベルカント唱法をベースとするイタリア音楽、ドイツ音楽文化を有しつつも、イタリア音楽、文化への指向性を持つドイツのマインド、ドイツ視点から見たイタリア音楽への指向原点を確認したいと思いました。ChatGPTでGoetheのイタリア紀行におけるイタリア音楽への指向性あるポイントを抽出させると、いくつも引用を提示します。ドイツ視点から見えるイタリア音楽の魅力もテーマアップしたいと思いました。勝負